

巻頭言

2月県会を顧みて

惣 津 律 士

34年度予算案を審議する2月県議会は去る2月25日に開会されて、3月2日から花々しい質問戦が展開された。

質問は農林、土木、教育にしばられた感があり、畜産については酪農関係で牛乳の県営脂肪検査の実施、畜産団体の整理統合、家畜分布の変化に伴う家畜保健衛生所の配置換と内容の充実、畜産物の需給調整などあって、随って、畜産振興の核心に触れての論議がなされなかった事の一抔のさみしさはあったけれども、これは知事、県会議員選挙を控えての骨格予算案の性格からみて当然だったかも知れない。

今1月から3月までの本県畜産行政をふりかえってみると、感慨一入なるものを感じず。先ず第一に1月11日から開始された牛乳の需給調整と乳価安定緊急措置は全国初のケースであるだけに、一般に「岡山方式」とまで名付けられて、鋭い批判をあげたが、とにも角にも45円の乳価を県と生産者団体で打出したことは特筆してよいと思う。

次に33年度当初予算で、本県の養鶏経営の向上を図るための廃鶏処理施設に対する県費250万円の出資の問題は、その後ブロイラーの計画生産にまで発展して、ついで3月に冷蔵庫300坪を経営する岡山県冷凍利用農業協同組合の誕生となり、更に食鶏の処理機関として加工連合会の発足にまで進展したことは養鶏界の朗報であると共にこの冷蔵庫を中心としての関連工場の誘致、鶏肉のみならず、その他の枝肉利用まで伸長する万能性を多分に包含する所に妙味を感じるのである。恐らく、こうした畜産物の流通施設の具体化と共に、懸案の畜産経済団体の統合も時間の問題とな

るものと思われる。

3月16日県民待望の酪農試験場の落成式が挙行された。そして蒜山分場も近く完成されんとしている。更に酪農界の3月朗報として、旭東集約酪農地域と美作集約酪農地域の拡大に対する政府指定がある。農林部長は今般の県議会でこの旨を発表し、美作、備中、旭東の3本の足の上に、岡山県の酪農は必ず将来めざましい発展をとげるであろうと指摘されている。

長い冬から漸く開放されて、たのしい春が訪れようとしている。私達は限りない情熱をこの上とも畜産の振興に捧げよう。